資料

ダウ・ケミカル社助成第1回報告会
2009年5月23日

Rits Habitat（インドネシアGVチーム）活動報告

京都新聞2009年3月14日付け朝刊

ケニアで植林、インドネシア地震復旧支援

立命大生ら人の温かみ感銘

ケニアで若者の自立支援活動に取り組んだ黄さん（中央、本人提供）

地震被災地の復興支援に取り組む学生たち（インドネシア）

立命館大の学生たちが、ケニアと大地震で被害を受けたインドネシアで現地の支援に取り組み、このほど帰国した。学生たちは住民と交流を深め、「今後の仕事や人生に生かしたい」と話している。

「人生に生かしたい」

ケニアを訪れたのは、同大四年の黄史華さん（23）。インドネシアを訪れたのは「リッツ・ハビタット」のメンバー十五人。それぞれ国際非政府組織（NGO）の「プラン・ジャパン」と「ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン」に参加、二月下旬―今月上旬の間、現地で活動を行った。

ケニアを訪れた黄さんは、現地のスタッフと若者が自立に向け何をすべきかなどを考えるワークショップに参加。政治情勢が不安定だったため、出発も一年延期となったが、植林や地域の清掃活動なども行った。

黄さんは「日本とケニアとの価値観の違いに戸惑ったが、同じ人間として、今後も国際貢献にかかわっていきたい」と話す。

インドネシアを訪れた学生たちは、ジョグジャカルタ近郊の村を訪れた。数グループに分かれ、二〇〇六年の大地震で倒壊した家屋の改築を手伝ったり、地元の学校を訪問して子どもたちと交流した。毛利裕樹さん（18）は「人の温かみにふれ、助け合いの大切さを深く感じた」と話していた。（佐藤知幸）

毎日新聞2009年4月15日付け朝刊京都版

アジアなどの貧困地域の住環境改善に取り組むNGO「HFHI」（ハビタット・フォー・ヒューマニティ・インターナショナル）の立命館大学生支部「リッツ・ハビタット」に所属。2月23日～3月7日、インドネシアで活動に参加したメンバー15人のリーダーを務めた。1年生の時、バングラデシュで初めて活動に参加。ボランティア活動の楽しさを知った。費用は自己負担のため、募金活動は多くの人に協力してもらい、助け合いの精神の素晴らしさも学んだ。

インドネシアでは積極的にメンバーに声をかけ、やる気を高めた。平日の午前9時～午後4時まで、セメント作りや資材運びなどに汗を流した。活動の輪を広げるため、今後は他大学の学生にも体験談を紹介していくつもりだ。【朝日弘行】

アジア貧困地域でボランティア
立命館大政策科学部3年
吉川達也さん（20）

助け合いの精神学んだ

中日新聞2009年4月21日付け朝刊

学生街ガイダンス

5軒の建設に協力

被災地で住居提供活動

立命館大2年　都築　由佳

貧困や災害から立ち直ろうとする人々が真っ先に必要なものが「家」。その実現に向け、開発途上国などで活動を続けているのが非政府組織（NGO）ハビタット・フォー・ヒューマニティー（本部・米国）です。百カ国で貧困層に適切な住居を提供する活動を行っています。

私は立命館大（京都市）にある日本での学生支部「リッツハビタット」に所属しています。この春、GV（Global Village＝地球の村）プログラムに参加し、リッツの十五人がインドネシアのジョクジャカルタへ赴きました。

ジャワ島中部地震被災地区で住宅建設に協力する筆者＝インドネシアのジョクジャカルタで

ジョクジャカルタは、二〇〇六年五月に発生したジャワ島地震の被災地。同国で死者五千人、負傷者二万人を数えたといわれ、震源地に近いジョクジャカルタは二年近い時が経過した今も、暮らしを立て直せない人が多いのです。

現地で、私たちは三、四人のグループに分かれ、合計で五つの家の建設に携わりました。建設活動はセメント作りやレンガ運び、壁造りを中心に、建て主や大工とともに行いました。

このプログラムに参加して、国や言葉が違っても人の温かさを感じないではいられませんでした。また、約四カ月前から事前に準備し、現地でも行動を共にして共に頑張った仲間を得たことも私の中でとても大きな意味を持っています。